＝　普　及　情　報　＝

Ｎｏ．２６

令和８年３月１９日
隠岐支庁農林水産局農業振興部

標題	「隠岐地域の肉用牛生産をみんなで考える」意見交換会を開催

（ダイジェスト）

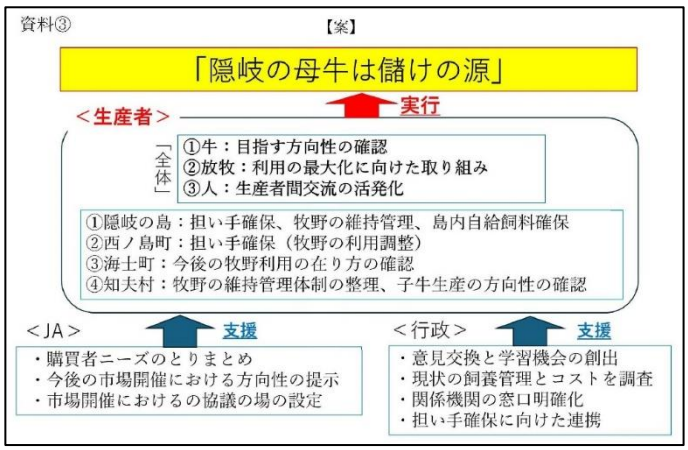
１月と３月の２回、隠岐地域の肉用牛生産を今後どのように取り組むか確認することを目的に、生産者と関係機関の意見交換会を開催しました。地域が抱える課題、今後取り組んでみたいことなどの意見をまとめ、「隠岐地域の肉用牛生産のめざす方向性」の案を作成し、今後具体的な取組みを検討・実行していくこととしています。

隠岐地域では、令和２年度に『４町村連携による「隠岐産牛」としての産地づくり～肥育素牛産地から繁殖素牛産地への転換～』の産地ビジョンを策定しました。これまで、産地創生事業を活用して優良繁殖雌牛・子牛生産頭数の増加、新たな担い手の確保に生産者、関係機関が連携し取り組んできましたが、ビジョン策定後に発生したコロナウイルス禍や生産資材の高騰などにより経営環境が悪化し、目標達成が遅れています。ただ、直近の子牛価格の上昇により収益性に改善の兆しがみられることから、この機会をチャンスと捉え、現状と課題を確認し、今後の取り組みの方向性を明確にするとともに、ビジョンの目標達成に向けた共通認識を醸成することを目的に、生産者と関係機関（ＪＡ・町村・県）による意見交換会を２回にわたり開催しました。

１回目の意見交換会は、１月に４町村を巡回して実施しました。全国・島根県・隠岐地域の肉用牛生産の現状と課題を説明した後、「隠岐地域の肉用牛生産における強み」をテーマに、出席した生産者全員に意見を伺いました。更に、地域における課題、解決してほしいこと、取り組んでみたいことなどについても活発な意見交換ができました。

この意見交換会の内容を基に、農業振興部で、生産者が主体となった取組みをＪＡ、行政（町村・県）が役割を分担して支援する「隠岐地域の肉用牛生産のめざす方向性」の案を作成しまし、３月にリモート形式で４町村をつなぎ２回目の意見交換会を開催しました。

「隠岐の母牛は儲けの源」というキャッチフレーズの案をキーワードに、「取組みの主役は生産者」であることを意識してもらいながら意見交換会を進行しました。その結果、「共通認識を持って取り組むことが重要」「放牧による子牛育成のコスト試算を示してほしい」「行政の生産者に寄り添った支援がほしい」といった意見が出されました。



今後は、全２回の意見交換会で出された意見をもとに関係機関と協議し、意見交換会に参加されなかった生産者を含めて情報周知を図り、実行に移していく予定です。

生産者に、自らが取り組みの主役であるという意識を持ってもらい、関係機関がどのようにその取り組みの実行に向けた支援を行えるかが、今後の隠岐地域の畜産振興において重要となります。農業振興部としても、生産者主体の取り組みの実現を念頭に置き、普及活動を継続していきます。

担当者	隠岐地域振興第二課	遠藤　治	TEL08514-7-9101